

「はじめてのにこにこ」 活動の進め方

☆必ずユニットごとの副教材(絵教材)と組み合わせて活動してください。

①活動への準備

・まず、語り文の登場人物(語り手)の絵を示し、だれの話か、トピックは何かを伝えます。

②【ことば】

目的:「語り文」を理解するために必要な言葉の意味を理解する。

・絵や、ジェスチャー、翻訳などで意味を示します。学習者に予習しておくように言ってもいいでしょう。テキストに意味を書くように言います。

・ボランティアが発音し、聞いて発音する練習をしてもらいます。

・【ことば】を取り扱う目安は5(～10)分程度。意味の確認にとどめます。

③ステップ1

目的:「語り文」の意味を理解する。

・ボランティアは、学習者に絵を見せながら、「語り文」を読みます。意味が伝わるように絵を指さし、ジェスチャーも交えながら少しゆっくり読みます。学習者が意味を理解したと思われるまで、2、3回繰り返し読んでもかまいません。

④ステップ2

目的:日本語の「音」を体得する。

・このステップの目的は「音声」です。ただし、「発音指導」や「発音矯正」が目的ではありません。まだ日本語の「音」を出すことに慣れていない学習者に、日本語の音やリズムを口になじませるための練習です。ボランティアが、絵を見せながら一文ずつ読み、学習者はテキストを見ないでリピートします。他の人が聞きやすい発音、イントネーション、スピードなどに留意します。

・文字を読むのではなく、耳で聞いた音を自分の口で再生するというイメージです。

・この練習は2、3回ではできません。学習者が滑らかに言えるようになるまで何度も繰り返しましょう。文字を追っていると、正しく発音できなくなりがちですので、ボランティアが発音したものを聞かせて、繰り返してもらいましょう。はじめから長い文が言えない場合は、「、」やちょうど区切りのいいところで切りながら練習をし、段階を踏んで1文が滑らかに言えるようにしましょう。

⑤ステップ3

目的:「語り文」がすらすら言えるようになる。

・ステップ2で十分にリピート練習をしたら、学習者はテキストの語り文を各自音読します。ステ

ップ2までは音声によるインプットですが、ここで文字によるインプットをし、語り文の意味を再確認してもらいます。読むのが苦手な学習者は、ボランティアがいっしょに読んでサポートします。

- ・音読を繰り返し、すらすら言えるようになるまで練習します。繰り返し言うことで、日本語を口になじませ、自分のものにしていきます。
- ・さらに、だんだん文字を追って‘読む’のではなく、時々テキストを見るだけで言えるようになれば、なおいいでしょう。ただし、いわゆる“丸暗記”を求めるものではありません。

⑥ステップ4

目的：絵を見て「語り文」を再構成する。

・絵を全部示して、学習者に「語り文」を言ってもらいます。ステップ3まででインプットしたことを、絵を想起の手掛かりとしてアウトプットする活動です。

* 語り文が複数ある場合、ステップ1～ステップ4を語り文ごとに繰り返します。または、ステップ1～「ステップ5の語り文相当分」を繰り返します。

⑦ステップ5

目的：質問文とその答え方を学ぶ。内容を理解していることを確認する。

・学習者同士ペアになって、質問し、答える練習をします。テキストには質問も答えも書いてあるので、それを読んでやるように言います。学習者はここで疑問詞の意味や使い方を学ぶことになります。ボランティアは、「語り文」の内容が分かっているかどうかチェックします。

・ペアでの練習が終わったら、今度はボランティアが質問し、学習者はテキストを見ないで答えます。

⑧ステップ6

目的：質問されて、自分自身のことが答えられる。

・ボランティアの質問に対して、学習者は自身のことを答えます。

・学習者が日本語の語彙をみつけられない場合は、ボランティアが適宜サポートします。

・このステップはコミュニケーション活動です。ここではテキスト通りの一往復のQAで終わらせず、学習者の答えに興味を示してさらに質問するなど学習者の発話意欲を引き出すような働きかけをしてみてください。

⑨ステップ7

目的：そのユニットのトピックについて自分のことが話せる。

・ステップ6で話したことを学習者が自分自身の「語り」として話し、ボランティアや他の学習者に聞いてもらいます。

* ステップ6とステップ7がひとつの活動になっているユニットもあります。

⑩【まとめ】 「語り文」の中に出てきた文のパターン(文型)を視覚的に示してあります。